

平成 30 年度 新潟市新津育ちの森事業報告書

特定非営利活動法人ヒューマン・エイド二十二

代表 椎 谷 照 美

1 交流事業

1. あそびの広場

利用者と職員、および利用者相互の交流の広場と位置づけている。保護者と子どもが楽しく安全に遊べる場になるよう、採光、換気、衛生に配慮し、子どもの年齢に考慮した遊具を備え付けている。毎日午前午後、手遊びやふれあい遊びを行う「スポットタイム」を実施し、来館した親子で遊びを楽しめる時間を提供した。

また、季節や行事を親子で楽しめる内容のイベントを企画した。館内装飾、スポットタイムも親子で楽しめるプログラムを提供し、利用者から好評を得た。地域の祭りや、子どもの日、七夕等日本古来の風習に親しむ機会を設けた。身近な場所で、子どもも大人も気軽に参加でき、来館のきっかけ作りになっている。

一人で来館している利用者に声をかけ、孤立させないように配慮している。年齢別に利用できるサロンは、同じような月齢のお子さんを持つ親子が交流、情報交換の場になるよう環境を整えた。ロビーにお茶コーナーを設置し、子どもを見ながらもくつろげる雰囲気作りをしている。安全面を考慮し、週 3 回午前 2 回午後 1 回、ベビー専用(1 歳 7 カ月まで)の日を設定している。毎週火曜日の午後は、入園していても 3 歳 11 カ月まで利用できる日を設定している。

- (1) 開館日時 ・ 日曜祝日、年末年始、土曜午後、館内メンテナンスを除く毎日
午前部 9:00～12:00
午後部 13:00～16:00
- (2) 場 所 ・ プレイルーム
・ サークルルーム 1 (部屋の貸出の無い場合 木製レール電車あそび)
・ サークルルーム 2 (部屋の貸出の無い場合 ドールハウス、ブロック)
・ 図書コーナー
- (3) 利用者数 ・ 利用数……延べ 16,374 人
- (4) チケット売上 ・ チケット売り上げ数……0 枚

【表 A】 開放区分

	月	火	水	木	金	土
午前	ベビー	フリー	ベビー	フリー	フリー	フリー
午後	フリー	フリー※	フリー	ベビー	フリー	休み

※火曜日の午後は、入園している 3 歳 11 カ月のお子さんでも利用できる日。

季節のイベント開催

4月 24, 25, 26日	こどもの日祭り 入場者延べ122人	12月18, 19, 20日	森のクリスマス 入場者延べ281人
6月 26, 27, 28日	七夕祭り 入場者延べ225人	1月29, 30, 31日	節分スポットタイム 入場者延べ244人
9月27日	交通安全教室 入場者延べ61人	2月26, 27, 28日	ひな祭りスポットタイム 入場者延べ213人
10月 23, 24, 25日	育ちの森ハロウィン 入場者延べ206人	3月23, 25, 26日	ありがとうの会（森の卒業式） 入場者延べ237人
12月11日	虫歯予防イベント 入場者45人	避難訓練 5月30日、11月16日の2回	

2. サロン

利用者のニーズに沿った内容のサロンを企画、実施した。職員がコーディネーターを務め、気軽な雰囲気の中で、交流や情報交換などを行った。ゲストを招いてのサロンや、発達に応じたサロンを開催。

「パパサロン」

父親の育児参加と子育ての情報共有・交流を目的として、毎月1～2回実施。職員がコーディネーターを務め、遊びながらパパ同士の交流を促し、情報交換を行った。

（運動あそび、木育玩具、折り紙、新聞紙あそび、タッチケア等）

「ベビータイム」

子育て支援センター利用のきっかけになるよう、興味関心をひく内容のサロンを実施。育ちの森へようこそサロン・赤ちゃんのへや、ハイハイのへやを開催し、赤ちゃんとのふれあいやあそび、子育て支援センター利用の情報提供を行った。また、利用者同士で交流を図れるようスタッフがコーディネーターを務めた。

「森のサロン」

子育てに必要な情報・関心の高いもの等の中から、テーマを決めサロンを開催した。

- ・紫外線対策サロン、幸せホルモンオキシトシンについて。育休明けのサポートや情報交換ができるサロンを実施。

2. 相談事業

利用者からの相談に随時対応し、必要に応じて相談室を使用し、個別に相談対応を行った。電話相談・Eメールによる相談も随時対応した。

職員は相談の初期対応を行い、専門的な関わりが必要な場合は職員間で協議し、必要に応じて速やかに各機関につなげた。

子育ての悩み相談の他、自身のこと、家族、ママ友、持病、経済的なこと等、相談内容が多岐にわたっている。

相談件数 計 2,406 件（電話・メール・面談）

3. 保育事業

「一時預かり」

事前登録を行い、当日保育カルテを確認、検温後、児の体調を確認し保育した。

休養、通院、冠婚葬祭等、求職、仕事復帰準備等の理由が主であるが、相談時に子どもと離れて相談するために利用するケースもあった。

「保育ルーム」

講座に保育ルームを設け、受講者のお子さんを保育。保育カルテ（保育ルーム専用カルテ）に記入後、一時預かりと同じように体調の確認を行い、保育した。

一時預かり・保育ルーム共に、時間や年齢等規定に合わない条件の場合は、他の団体や保育園を紹介するなど、外部との連携を図り、柔軟に対応した。保育ルームには、保育者の他に職員が入り、保育・総括した。

1. 一時預かり

保育件数……181 件

平均利用時間……3.46 時間

2. 保育ルーム

(1) 保育数……延べ 321 人

(2) 開 設……53 回

保育時間は 2 時間

4. 講座

育児ストレスや不安の軽減を図るため、子どもの成長、発育などの知識を得たいという利用者のニーズに応じたセミナーを実施。セミナー内で交流や意見交換ができるよう職員がコーディネートした。毎回のアンケート結果をセミナー企画の参考にするなどし、セミナーの充実を図った。

(1) 育児に必要な知識の提供や子どもとの関わりを学習する講座

トイトレニング、きょうだいの子育て、子育てハッピーセミナー、救急法、タッチケアセミナー

(2) 交流・情報交換を主にする講座

1 歳児セミナー、2 歳児セミナー、ベビ・ママセミナー、育休セミナー

(3) 地域の子育て支援講座

サークル研修セミナー

(4) 再就職を支援する講座

保育園入園申込み説明会

(5) 市民も気軽に参加できる講座

メモリアルブック、メモリーブック、救急法

参加総数 863 人

5. 情報発信

子育て中の保護者の声や様子から情報提供の重要性を感じ、ホームページ、支援センター便りで情報を提供した。地域のコミュニティFM局の番組を活用し、子育てに関する情報をスタッフが企画し、パーソナリティを務め、市民に情報提供した。

また、子育て情報を掲載した季刊情報誌を発行し無料配布した。

- ・情報誌「Cocokara（ここから）」年4回（4・7・10・1月）編集発行。（B5版、28ページ4,000部）新潟市内保育園・公民館・公共施設・公共機関等を中心に配布
- ・HPを随時アップデート 年間アクセス数13,504件
- ・図書コーナーの育児・情報書籍の貸し出し。 年間272冊
- ・ラジオチャットFMにいつ「子育て応援します CHATランド」で子育ての情報を発信。

6. 子育てサークル支援

当館の利用が困難、地域で仲間づくりがしたい等の理由で、子育てサークルが果たす役割は重要であると考え、子育てサークルの運営支援を実施。

1. 子育てサークル支援研修・サークル限定日

- ・サークルリーダーを対象とした研修会を開催。（年2回）参加人数8人
- ・各サークルの交流を目的にサークル限定日を年2回実施。

参加サークル 7サークル

2. サークル出張・相談

- ・希望のあったサークルにスタッフが出向き、手遊びやふれあい遊びなどを提供。
実施サークル……5サークル
- ・サークルの活動を積極的にサポートするため、運営や人間関係、活動内容などの相談対応を行った。

※子育てサークルからの要望により、講師の情報提供を行った。

7. 地域との連携

1. 遊びの広場サポーター・保育サポーター研修を実施

遊びの広場、保育に関わるサポーターに対して研修等を実施。サポーター同士の交流、スキルの向上を図るため実施。

保育サポーター研修 4回 登録サポーター 18人

2. ボランティア育成・支援

地域の人材を子育て支援の現場に活動できる場を設けた。

- ・手作りおもちゃやエプロンシアターの製作。 月3~4回 ボランティア5人
- ・季刊誌「Cocokara（ここから）」の4コマまんが。ボランティア1人
- ・花壇ボランティア 2人

8. 次世代育成

1. 中学生の総合学習受け入れ
 - ・新潟市立金津中学校総合学習、1年生～3年生 16人受け入れ
※子どもとのふれあい遊び。
2. 中学生職場体験受け入れ
 - ・新潟市立新津第一中学校2年生 2人受け入れ
 - ・新潟市立金津中学校2年生 1人受け入れ
3. 大学、専門学校実習及び研修（育ちの森見学後、子育て支援に関する講義及び実習）
 - ・新潟大学医学部保健学科看護学専攻臨床実習3年生 81人
 - ・新潟県立大学人間科学部子ども学科1年 5人
 - ・新潟看護医療専門学校看護学科母性看護学実習3年 41人
 - ・新潟薬科大学応用生命科学部応用生命学科3年 4人

事業実施のための体制

- | | | |
|--------------|------------------------------|------------|
| (1) 開館時間 | 月～金曜日 | 9:00～16:00 |
| | 土曜日 | 9:00～12:00 |
| (2) 職員 | 館長 | 1名 |
| | 副館長 | 1名 |
| | 受付事務 | 1名 |
| | 広報担当 | 1名 |
| | 保育士 | 2名 |
| | 看護師 | 1名 |
| | パート職員 | 1名 |
| | 用務員 | 2名 |
| (3) サポートスタッフ | 一時預かり・保育ルームなど、必要に応じてサポーターを配置 | |

自主事業報告書

事業名 学年別限定日

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

同じ学年の子ども同士、年齢に応じたあそびの提供を行った。プレイルーム、サークルルームの玩具の選定・配置を工夫し、同じ学年ならではのあそびを楽しめるようにした。親同士も同じ学年の子どもを持つ親同士で情報交換を行えるようにした。

平成 28 年度生まれ限定日（平成 28 年 4 月 2 日～平成 29 年 4 月 1 日生まれ対象）

平成 29 年度生まれ限定日（平成 29 年 4 月 2 日～平成 30 年 4 月 1 日生まれ対象）

限定日利用参加人数

平成 28 年度生まれ			平成 29 年度生まれ		
開催月日	時間	利用人数	開催月日	時間	利用人数
4 月 13 日	9 時～12 時	31	5 月 10 日	9 時～12 時	69
6 月 8 日	9 時～12 時	46	8 月 3 日	9 時～12 時	36
9 月 13 日	9 時～12 時	31	10 月 12 日	9 時～12 時	41
12 月 7 日	9 時～12 時	53	1 月 11 日	9 時～12 時	45
2 月 10 日	9 時～12 時	47	計		191
3 月 8 日	9 時～12 時	35			
計		243			

実施回数 10 回 総参加者数 434 人（親子）

- ・初めて育ちの森に来館するきっかけ作りになったようで、限定日を目指して利用する方も多かった。
- ・あそびの提供の時間（スポットタイム）も、年齢に応じた体操などの内容を提供した。

(2) 目的の達成状況

同じ学年の子どもが遊べる環境を整えたことで、あそびを楽しんでいた。新聞紙で遊べる部屋、ボールで遊べる部屋、お店屋さんごっこ、ままごとコーナー等も同じ学年ならではの成長に応じたあそびが楽しめた。限定日ということで、ダイナミックに遊ぶ姿もみられた。人数も多すぎずに、充分楽しめるスペースがあった。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

同じ学年が集まったので、同じようなあそびが好きなことや、「イヤイヤも自分の子どもだけではないことを知り、気が楽になった」「普段できない新聞紙遊びや、ボールあそびは、子どもが発散できた」「いつもと違った雰囲気の中で、親子で楽しめた」という意見があった。次年度以降も継続して実施していく。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない

※学年限定日の他、サークル限定日を年 2 回実施。

自主事業報告書

事業名 中学生総合学習「乳幼児ふれあい体験」

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

実施日時 ①平成30年5月17日、②5月31日、時間午後2時～3時30分

実施回数 2回

参加中学生数 1回目10人 2回目9人

- ・総合学習の中学生が、子育て支援センターの役割や乳幼児の成長発達を学び、ふれあうことを目的として参加。
- ・中学生自身も、お母さんと遊ぶ子どもたちの姿を見て、大切に育てられたことに気づき、小さい頃好きだった玩具を思い出して遊ぶ。
- ・館内を見学し、それぞれの部屋について説明を聞き、子育て支援センター利用の仕方を知る。
- ・乳幼児と触れ合う際の注意する点、遊び方、声のかけ方を学ぶ。
- ・スポットタイム（あそびの提供）の時間に、乳幼児の遊んでいる様子をみながら、一緒に参加し楽しむ。
- ・2班に分かれ、プレイルーム、電車の部屋、ドールハウス、絵本の場所で乳幼児と関わる。
- ・ふれあった感想を発表する。

(2) 目的の達成状況

「乳幼児の頃、自分自身が育ちの森に遊びに来ていたことを親から聞いて来た」「ここに来たことを思い出し、ままごとで遊んだ」という声が聞こえた。「もっと部屋が大きいと思った」「トーマスすごい！いろいろな種類がある」等の感想を言い合いながら、懐かしそうに館内を見ていた。「自分たちが大きく成長したこと、親に連れてきてもらったこと、自分の親もあんなに優しくかったのかな」「小さい子どもは可愛い」という声も聞かれ、優しく乳幼児に接していた様子がみられた。支援センターは、あそびに来るところだけではなく、子どもを預ける場所、相談できる場所、ということも理解した。

「乳幼児と笑顔で関わりたい」「一緒に遊びたい」という目的を持ってふれあうことにより、生徒の表情も優しい表情になり、自然と笑顔になっていたことから、それぞれの生徒が、自分の中の目標が達成できたように思う。

(3) 利用者と中学生の反応・満足度と今後の対応

乳幼児とふれあう中学生を見て、保護者が「優しいですね」「上手に遊んでくれてありがとう」「きょうだいがいるの？」等、話しかけている様子がみられ、「自分の子どもも大きくなると、こんな風に成長するのか」「優しい中学生になって欲しい」「お兄さん、お姉さんと遊べるのを楽しみに来ました」という意見も聞かれ、中学生が、子どもと遊んで楽しいということだけではなく、遊んでもらった子どもも、それを見ている保護者にとっても、意味のある事業だと実感した。遊んだ子どもが笑顔になったり、なついてくれたりしたことから、関わった中学生の満足度は高いと感じた。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない

自主事業報告書

事業名 にいつ夏祭り 三之町屋台によるお囃子「松坂流し」

(1) 実施状況（実施日時・利用人数等）

実施日時 平成30年8月18日 午前11時～11時20分

実施回数 1回

参加者数 55人

目的

- ・新津夏祭りのお囃子新津松坂を楽しむ。
- ・屋台のお囃子をライブで聴き、祭りの雰囲気味わう。

(2) 目的の達成状況

地域の方から、祭りのお囃子を、育ちの森で披露してもらうことで、乳児から幼児まで、祭りに足を運ぶことが出来ない方にも、新津の伝統行事を体験していただくことができた。

日常の中で耳にすることがない笛や太鼓の音を聴き、子どもたちも喜んで体を揺らし、手拍子をしていた。お囃子のみではなく、親子で一緒に楽器を使い、村祭りの曲で合奏を楽しんだ。

親子で祭りの雰囲気を楽しんでいる様子が伝わったことから、目標は達成できたと感じている。

(3) 利用者の反応・満足度と今後の対応

「祭囃子を楽しみに今日来ました」「子どもの頃踊ったので、懐かしくて来ました」等の声があり、生の太鼓や笛、鐘の音を楽しんでいた。赤ちゃんも一緒に笑顔で参加し、大人も地域の祭りの雰囲気を味わっていた。地域の協力を得て実施できる事業を、今後も継続して実施していきたい。伝統的な祭りの雰囲気を十分に味わうことができた。

(4) 収支決算 この事業に係る経費は発生しない